

ぐんまのキャリア教育① 小・中学校編

キャリア教育の必要性

現在、社会の様々なところで構造的な変化が進む中、産業や経済の分野の変化は著しく、雇用形態も多様化しています。また、学校から社会への移行過程に問題を抱える若者が増加し、ニートやフリーターの問題、早期離職者の増加が社会問題となっています。

このような中、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ、社会人・職業人として自立していくことができるようになり、キャリア教育が重要になってきています。

キャリア教育で育てる力

キャリア教育とよく似た言葉で、「職業教育」というものがあります。「職業教育」は職業に従事するために必要な知識、技能を育てるためのものです。これに対して、



キャリア教育で育てる力

- ①人間関係形成・社会形成能力
 - ・他者の個性を理解する力
 - ・他者に働きかける力
 - ・コミュニケーション・スキル
 - ・チームワーク
 - ・リーダーシップ など
- ②自己理解・自己管理能力
 - ・自己の役割の理解
 - ・前向きに考える力
 - ・忍耐力
 - ・自己の動機付け
 - ・ストレスマネジメント
 - ・主体的行動 など
- ③課題対応能力
 - ・情報の理解・選択・処理等
 - ・本質の理解
 - ・原因の追究
 - ・課題発見
 - ・計画立案
 - ・実行力
 - ・評価・改善 など
- ④キャリアプランニング能力
 - ・学ぶこと、働くことの意義や役割の理解
 - ・多様性の理解
 - ・将来設計、選択
 - ・行動と改善 など

キャリア教育は、子どもたちが社会の中で、自立して生きていくために必要な基礎となる力を育てることを目的としています。つまり、自らの力で生き方を選択していくことができる力や態度を身に付けさせていくことを大切にしているのがキャリア教育です。具体的には、右のような力が挙げられ、これらの力を小学校・中学校・高等学校の教育活動全体を通して育てていきます。

各学校段階におけるキャリア教育の目標

高等学校におけるキャリア教育の目標

- 自己理解を深めることと自己受容
- 選択基準としての職業観・勤労観の確立
- 将来設計の立案と社会で働く準備
- 自分の状況や現実と対応した進路の認識・判断と試行的な参加

中学校におけるキャリア教育の目標

- 肯定的に自分をとらえる感情、自分の存在を価値あるものと受け止められる感覚の獲得
- 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成
- 進路計画の立案と仮選択
- 生き方や進路に関する現実に関する調査

小学校におけるキャリア教育の目標

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己へのイメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

小・中・高を通して

社会的・職業的自立に向けて
必要な意欲・態度や能力の育成

小学校・中学校におけるキャリア教育の例

	活動例	育てる力
中学校	身近な消費行動を振り返り、消費者の基本的な権利と責任について理解を深める (技術・家庭)	④キャリアプランニング能力
	「自己及び他者の個性の理解と尊重」や「社会の一員としての自覚と責任」に関する活動 (学級活動)	②自己理解・自己管理能力
小学校	「職場体験活動」などを通し、地域で働く人たちの勤労観・職業観や生き方について、自己の生き方を探究することを通して考える (総合的な学習の時間)	④キャリアプランニング能力
	サツマイモなどの作物を収穫まで継続的に栽培する (生活)	③課題対応能力
	「商店街見学」や「農家の見学」などで「働く人たちへのインタビュー」を行う (社会)	①人間関係形成・社会形成能力
	自分の名前にこめられた思いを家の人の手紙から読み取る (道徳の時間)	②自己理解・自己管理能力